

VII. 岐阜県開発教育実践講座の記録

岐阜県において実施した開発教育実践講座の記録として、講座の開催記録、参加者のふりかえりシート、作成・配布した主要な資料、準備会の打合せの経過を示します。なお、主な「記録」の体裁としては、実践講座の企画から運営、記録まですべてにわたり、準備会が行ってきたことから、基本的に準備会が作成したものを尊重し、そのまま掲載しました。

1 岐阜県実践講座開催記録

(1) 講座の概要

◆ 日時・場所

- ・ 日時：平成16年1月31日（土）13時～16時30分
- ・ 場所：岐阜県県民ふれあい会館 第2棟9階 国際ネットワーク大学コンソーシアム講義室
- ・ 参加者数：47人（講師・スタッフを含む）

◆ テーマ

「How To 国際理解教育 ～今後の授業に役立てよう！～」

◆ プログラム

★セッション1

- 1 主催者挨拶
- 2 アイスブレイキング
- 3 『コーヒーの貿易ゲーム！』 授業ですぐ使えるワークショップを体験
～学年に合わせたアクティビティ、小・中、高校生別にアレンジ～

★セッション2

- 4 「お知恵拝借、ポートフォリオを取り入れた理想の年間計画を作成！」
- 5 意見交換・ふり返り、アンケート記入
- 6 閉会

(2) セッション1

◆ 1 主催者挨拶 興梠 康一郎

◆ 2 アイスブレイキング

- ・ 次の質問をして回答から答えを求める。
 - ① コーヒーは好きですか？
 - ② コーヒーを消費している国は？
 - ③ コーヒーを生産している国は？

→コーヒーの生産地の説明

◆ 3 『コーヒーの貿易ゲーム!』ファシリテーター：日下部貴枝、稲川裕子

ワークショップの進行については別紙シナリオを参照。

イントロダクション

- 受付で名札についていた色のあるシール別に座ってもらっている。その色別の座席ごとで1グループ。色のない人は2人で、企業（アミーゴ社）の役を演じてもらう。
- 色別のグループは家族。父や母などの役割を決める。
- グループの人にファミリー名と家族の構成と名前を発表してもらう。

これから実施するワークショップの事前説明

<条件>

- 中南米の農家-10ブロックの農地を持っている。
- 1ブロック分の野菜・穀物を買うときは、通常1,000円
- 作ったものはすべて食べて、売ることはできない。
- 家族で野菜の食べる量は10ブロック分。
- 貯金がしたい。
- 子どもたちを学校に行かせてあげたい。

<配布物>

- 農地シート（別紙参照）

アミーゴ社からの農家への説明

アミーゴ社。リサーチしてこの場所へきた。

- この土地がいい理由。
 - ① 皆まじめで信頼関係が築ける。
 - ② 干ばつであえいでいるが、コーヒーには最適。
 - ③ コーヒーを作って全世界に売りたい。

説明会だけでも聞いてみたい家族…全部。

- 条件提示…1ブロック1,500円でコーヒーを栽培した場合、購入する。
- 家族からの質問…保障はどこまで？子どもの教育は？干ばつが起きたら？
- アミーゴ社「ともに利益を得ましょう！」

シミュレーション開始

説明を聞いて話し合って契約をしたい家族…全部。

農家ごとに毎年、生活のことを考えながら、コーヒー畑と野菜を10ブロックどのように作るから、相談しながら決定する。

- 1年後=コーヒーは実り、コーヒー畑にした分だけアミーゴ社から@1,500 円がそれぞれ支払われる。
 コーヒー畑に代えた分、農協に食べるための野菜代@1,000 円を払う。それでもコーヒー畑にした分は1ブロック当たり500円の儲け。儲かったお金は袋に入れる。2年目はどうするか家族で話し合い（毎年10ブロックをコーヒーと野菜、どのような割合で育てるか家族で決めていく）。
- 2年後=干ばつは起きて、コーヒーは無事。野菜は購入価格が2倍に。
 アミーゴ社からコーヒー1ブロックに対して@1,500円がそれぞれ支払われる。
 以下、条件は別紙参照参照。
- 3年後、4年後、結果については完成した表参照。合計を検証する。

シミュレーション終了後

- (質問1) アミーゴ社はどのくらい儲かっているのか？
- (回答) アミーゴ社は264,000円儲かった。1ブロック=7,500円で先進国に売っていた。6,000円の儲け。
- 農民代表：アミーゴ社が儲かっているのは分かっていた。
- アミーゴ社社長：天候とか当社でどうしようもないこともある。儲かって良かったという思いもある。
- 秘書：でも大きな収入には、大きな支出がある。損をしている農家からむしり取っている訳ではない。

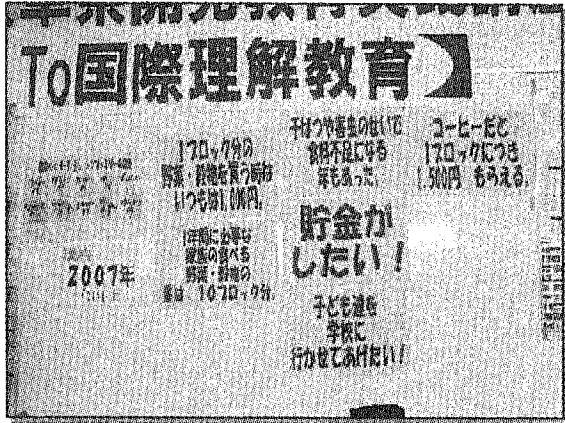
ふりかえり

以下の項目の書いた紙を配布して、5分で考える。それをグループ内で話し合う。ここでグループを2人ずつ入れ替え。

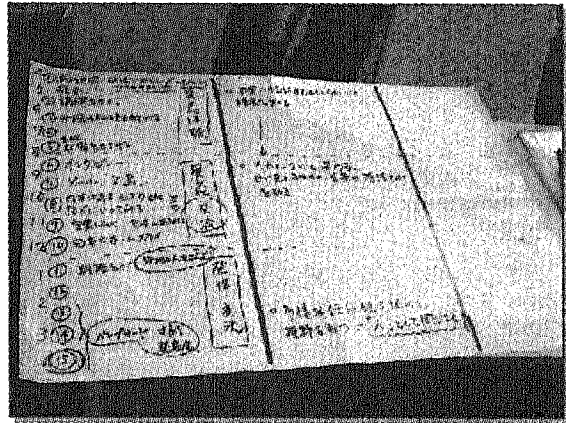
- どうすれば農家は借金を作らずに済んだのか。又貯金をするにはどうしたら良いのか。
- 結果的にどちらのグループも利益をあげることができたろうか。
- 農家にとって不本意な結果になった場合、その責任を企業に問うことはできるだろうか。
- 「農家はコーヒー栽培を行わず自給自足の生活が続ける方が良い」と言えるだろうか。
- 「相互依存」とは、さまざまなことがさまざまな関係でつながっていることを意味するが、今回のシミュレーションでは、下記のそれぞれがどのような関係（相互依存）を持っていたらうか？

農家 企業 自給用農地 コーヒー栽培用農地 世界市場 物価 天候
 過去のできごと 教育 お金 家族 工業国 開発途上国 借金の条件

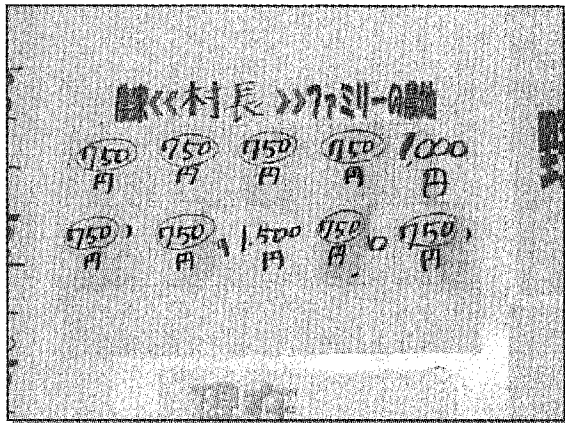
「コーヒーの貿易ゲーム」の様子



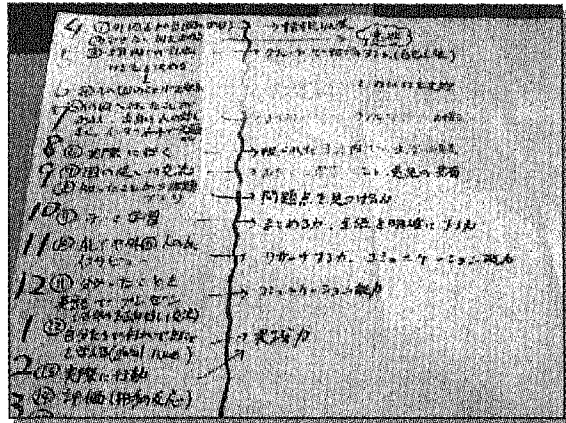
▲ コーヒー貿易ゲームルール



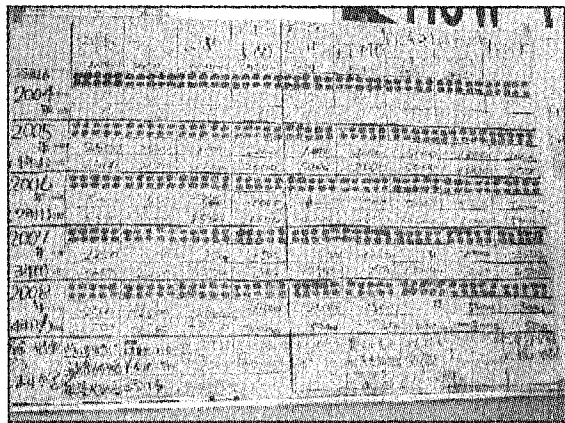
▲ (グループ1) 年間計画



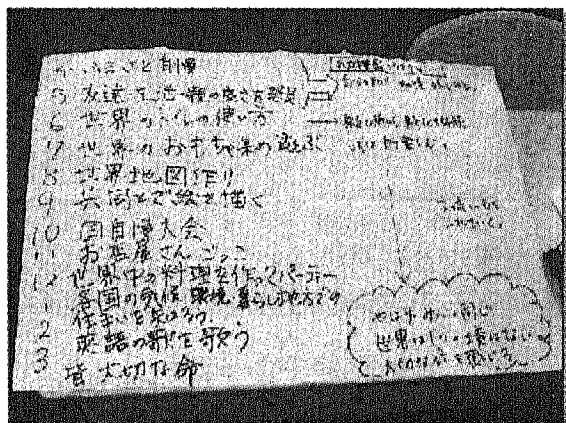
▲ グループごとに収穫高を記録していきます



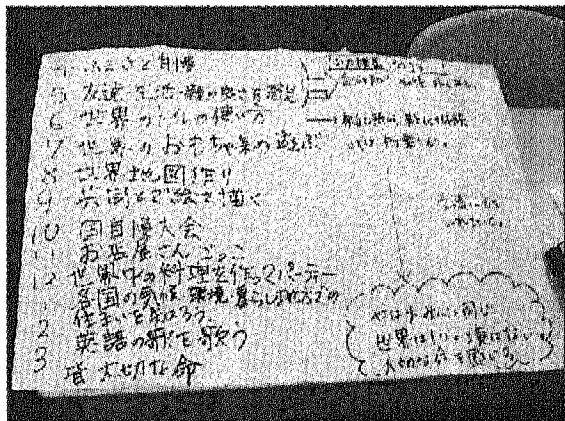
▲ (グループ2) 年間計画



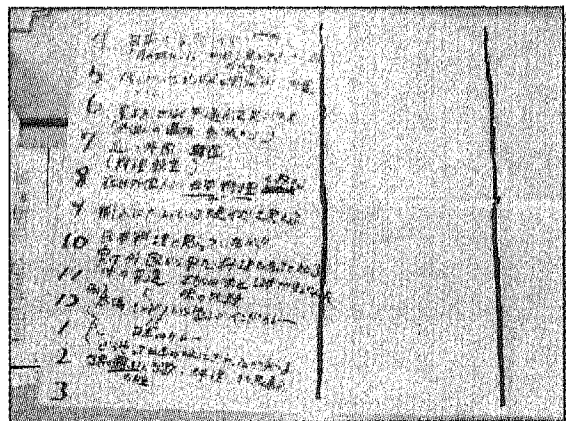
▲ グループ別成果



▲ (グループ3) 年間計画



▲ 各年の成果に影響する自然要因など



▲ (グループ4) 年間計画

感想

- アミーゴ社は情報持っているので、情報不足だった。
- 小さな村なので、世界の状況に左右されやすかった。
- 他の人家族と協力してもよかった。
- 教育は大事。
- 借金返済ばかり考えていた。
- 企業に振り回される一方だったので、相談したかった。
- 多国籍企業は必ずしも悪とはいえない。このゲームは大事なことを含んでいるが、多国籍企業で親が働いている子どももいるので、ふりかえりをしっかりやって、問題の本質を考えながらするのが大事と思った。

コーヒーについて

- 普段なじみのない木や実を、写真、実際の実、木等で紹介。
 - コーヒーはデリケート。霜降りると枯れる。コーヒー畑全体に移り枯れることも。
 - 北緯、南緯 25 度以内の高地で作っている。
- 普段、大量に飲んでいながら全くコーヒーについて参加者がしらないことを痛感。

ファシリテーターの解説

- 名古屋での同様の研修をしたが、非常に参考したが多少難しかった。小学校～高校までわかりやすくしたかった。
- 学校で参加型のアクティビティを取り入れて欲しくてお持ち帰り資料を作った。
- 「子どもたち」に実践してほしい。
- 羽島市足近小学校で1週間前に小学生 60 人を相手に実践した。
- 簡略化すれば、現場で使える。

(3) セッション2**◆ 4 「お知恵拝借、ポートフォリオを取り入れた理想の年間計画を作成！」**

ファシリテーター：古田敦子

- 小学校、中学校、高等学校、その他でわかれて、口の字型に座る。

詳しくは別紙のまとめ参照。

総合学習のイメージとは？

- Yさん：生きる力を育むためのもの。
- Tさん：はっきりといえない。自らの力で自らの課題を見つけ、解決する力を身につけるもの。
普段授業でできない環境とかに取り組んでいる。週1時間。実際 30 時間している。

学校での国際理解教育は？

- Rさん：JICA国際協力出前講座の講師を呼び、海外の話聞き、視野を広げたり、異文化理解。
- Bさん：良く講師として訪問するのは小学校。フランスの紹介。子どもの日常生活に一番近づいて考えている。
- 一番大切なのは、生活が少し違っても、同じ人間だから基礎はそんなに違わない。

時間数

- 年間～120時間まで色々。
- 僕たちの当たり前は、世界の当たり前ではない。—地球儀をみて、ゲームをしたりする。
- 世界には色々な幸せがあるが、世の中には食べられない者も。貧困な状況について考えてもらう。

国際理解教育で取り組めるアイデア

- 国際理解教育で取り組めるアイデアを3分間隣同士で考える。2人のペアになり、交互にできる限りあげる。生きる力を育むためのアイデア。

・例) メールや文通で相手を探す。ホームページを作る。絵本(中学校)。

ポートフォリオの薦め

- 2種類の資料を配布。
- ポートフォリオを利用して授業づくりをしてみても?
- 皆さんに年度の計画を立てる際に国際理解教育でこんなことやって、こんな力をつけたいと考えて欲しい。そのための計画作りをして、その中で是非JICA国際協力出前講座も学校に訪問し、協働でいいものを作り上げていきたい。

年間スケジュール作成

- 4人グループ(小学校チーム、中学校チーム等)で、5分間年間で取り組める15アイデアを出す。その後模造紙にまとめる。
- 小学校グループが発表。その他は、ギャラリー方式で5分間見て回る。

興味深かったもの、面白かったこと(学校)

- 外国語を使わない日。
- HAPPYになる—3月に書いてあった。プラス思考でいい。
- ホームレス体験。

まとめ

- 予算から旅行企画から入って、学校に行きたいというのが関心を高められて、具体的で良い。
- アイデアを持ち帰ってもらえたら嬉しい。理想の国際理解教育を打ち出したことでふりかえりになったのでは。
- ねらい:先生だけでなく、青年海外協力隊、自治体、国際交流員に声をかけて、実際に集まった。集まったメンバーで国際理解教育を考えられたのは良かった。ネットワークをつないでいきたい。出会い、ご縁を大事にしていきたい。次年度は、年度の最初の6月に役に立つ講座を実施していきたい。

◆ 5 意見交換・ふり返り、アンケート記入

◆ 6 閉会

岐阜県実践講座のふりかえりシート

岐阜国際協力推進員による「イベント報告書」から参加者の反応・声を拾いました。

◆ 具体的な声

- 今回も本当にいい勉強になりました。我々の研修だと2時間でもぐったり、うんざりといったものが多いのですが、4時間参加しても何故かさわやかさが残ります。それはワークショップという形をとる中で、そこに参加された方々の人間性というか生き方に触れられるからかもしれません。本来は人と接するのがおっくうな私なんですけど、少しだけ改善されているようにも思います。本当に有り難うございました。
- 翌日の日曜日5年生の先生方と話す機会を得、「コーヒー貿易ゲームをやってみませんか。」と提案した処、今回は「やります」と即答してもらえました。今の5年生はまとめの段階にきていても成果がなかなか見えず、本当にやってみる値打ちがあるか先生方とも議論しました。単発に良いことをやっても効果はあるのか悩みや心配は尽きません。でも何かやらないことには始まらないということでコーヒー貿易ゲームをやることにしました。
- 学びの多くあった講座で、勉強になりました。今回は、出前講座の事前学習で使いたいという目的もあったので、昨日、貿易ゲームを早速使わせていただきました。WSを行う上で気を付けたかったのは、企業＝悪、という単純な図式に陥らないこと。どうしても「だまされた」「企業のせい」「企業だけあんなに儲けて」と思ってしまうがちのワークだと思います。しかし、貧困＝大変、可哀想 企業＝悪というステレオ・タイプの考え方ではおそらく、何も解決できないでしょう。このワークは「相互依存を考える」というねらいに分類されていると思います。もし、あのワークが、そういった視点でのみ、広がっていくのだとしたらそれは開発教育にとっては良くないことだなあ、と思うのです(省略)。
- いろいろな方と話をすることで、「私もがんばらなくては！」と元気をもらいました。
- 「国際理解教育」というのは、今のうちの学校ではやらなくても済んでいくことだけどやはり生徒に知ってもらいたいし、考えてもらいたいです。
- 今年の総合学習のやり方は思い切り失敗だったので、国際理解教育のやり方を提案して、少しでも時間を割いて他の先生にやってもらえるようにしたいと思います。まずはできるところから、ということで3月くらいには「コーヒー貿易ゲーム」を道徳で使ってやってみたいと思っています。。

岐阜県実践講座準備会の打合せ経過

岐阜県実践講座準備会は、次のとおり打合せし、実践講座の企画立案、運営準備などをしてきました。

回	日時・場所	出席者	打合せ項目
1	12月13日(土) 11時～15時 岐阜県国際交流センター	日下部、稲川、古田、 磯貝	講座のねらい/内容の確認・共有 アクティビティのアイデア出し ブレイン・ストーミング
2	1月24日(水) 11時～19時 岐阜県国際交流センター	日下部、稲川、古田	プログラムの流れ、中身を具体的に決める

岐阜県実践講座に向けて作成した次の主な資料を添付します。

◆ 資料名

- ① 資料1：新聞記事 [1 ページ]
- ② 資料2：募集チラシ [2 ページ]
- ③ 資料3：開発教育人材育成セミナー2003 in 高山での実施プログラム [1 ページ]
- ④ 資料4：コーヒーの貿易ゲームシナリオ (小学生・中学生編) [15 ページ]
- ⑤ 資料5：実際にやってみました [1 ページ]
- ⑥ 資料6：お知恵拝借、ポートフォリオを取り入れた理想の年間計画を作成！ [5 ページ]

「中日新聞」朝刊 平成16年2月1日第18面

資料1

国際理解の教育法
岐阜で教師ら学ぶ
独立行政法人・国際協
力機構中部国際センタ
ー(名古屋)は三十一日
「How To 国際理
解教育」をテーマにした
ワークショップ(研究集
会)を岐阜市の県民ふれ



国際理解を深めるため
の題材を提供し、学校現
場や地域活動に生かして
もらう狙い。二〇〇一年
から各県で年一回開き、
県内の学校教諭や自治体
で国際交流を担当する外
国人、青年海外協力隊経
験者ら約五十人が参加し
て考えた。

この日は、中南米など
で盛んなコーヒー栽培を
題材にした「貿易ゲー
ム」を提案。参加者が裁
培農家の立場になり、生
産量や各国での消費量の
増減が、栽培農家の家計
に直接影響を与える様子
をさまざまな事例を通し
て考えた。

同センターは「子ども
たちなどの年代に応じた
分かりやすい事例をこれ
からも提供していきたい
」と話していた。

(石川 浩)

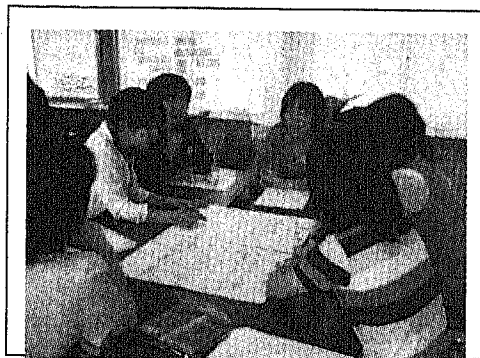
平成15年度 岐阜県開発教育実践講座

How To 国際理解教育

～今後の授業に役立てよう！

「総合的な学習の時間」が始まってから2年が経とうとしていますが、国際理解教育を導入された各学校や先生方は岐阜県でどのような授業の実践をされてきたのでしょうか？授業で使えるワークショップ(参加型学習)の体験を通して改めて国際理解教育の必要性、質の向上、授業の可能性の広がりを皆さんと一緒に考えてみませんか。

この講座は6～9月にかけて1泊2日で3回開催されたJICA 中部の「開発教育指導者研修」の参加者がファシリテーターを担当します。



↑本講座企画者たちが指導者研修でWSを体験

日 時 : 2004年1月31日(土)13:00～16:30 (受付 12:40～)

会 場 : 岐阜県県民ふれあい会館

第2棟9階 「国際ネットワーク大学コンソーシアム講義室」

(岐阜市藪田南5-14-53 ・JR西岐阜駅から無料バス運行 / 発車時刻11:00、11:30)

対 象 : 教員、学生、自治体関係者、NGO/NPO、市民グループ、児童生徒の父母、CIR、青年海外協力隊経験者、国際理解教育に関心がある方

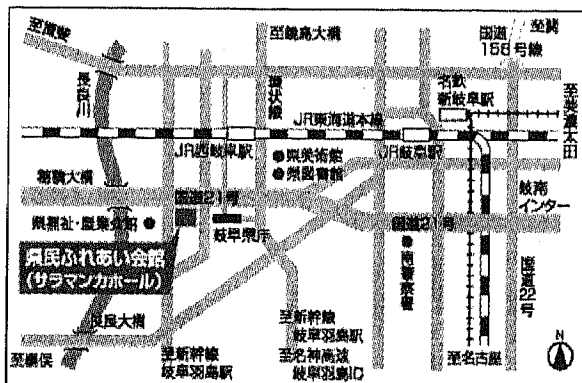
<定員40名> <無料>

主 催 : 独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター (JICA 中部)

後 援 : 岐阜県教育委員会、岐阜県

プログラム : (裏面)

申込み方法 : 申込用紙にご記入の上、FAX または郵送にてお申込みください。メールや電話でも可。



同日同会場第2棟3Fで午前中に「青年海外協力隊」の帰国報告会を実施いたします。

12:00～任国料理の試食会(軽食)も行います。無料、一般公開ですので、よろしければあわせてご参加ください。

《 《 プログラム 》 》

12:40~13:00	受付
13:00~13:05	主催者挨拶
13:05~15:00	『 コーヒーの貿易ゲーム! 』 授業ですぐ使えるワークショップを体験。 学年に合わせたアクティビティ。小・中、高校生別にアレンジしてみました。 ファシリテーター：下呂町立竹原小学校 日下部貴枝 教諭 県立大垣西高等学校 稲川 裕子 教諭
15:00~16:10	「 お知恵拝借、ポートフォリオを取り入れた理想の年間計画を作成! 」 ファシリテーター：JICA岐阜県国際協力推進員 古田敦子
16:10~16:25	意見交換・ふり返り
16:25~16:30	アンケート記入
16:30	閉会

※アクティビティ：ワークショップの中の1つ1つのプログラム。

※ワークショップ：もともと「作業場」をあらわす英語。対等な立場で集まった人たちが1つのテーマについて考える参加型学習の場である。

※ファシリテーター：ワークショップを進行する人・活性化させる人。ねらいを達成するためのプログラムを企画し、話し合いの素材になるものを用意し、時間管理を行い、雰囲気作りをしながら参加者の考えを引き出していく。

※ポートフォリオ：子どもと教師が共同的に展開する、継続的な学習データの収集・整理であり、学習の多様性に応えるための評価方法。

《 《 申し込み・問い合わせ先 》 》

JICA 岐阜県国際協力推進員 古田敦子
〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-53
岐阜県県民ふれあい会館6F (財)岐阜県国際交流センター内
TEL : 058-276-4459 FAX : 058-272-8839
e-mail : Furuta.Atsubo@jica.go.jp

岐阜県実践講座に先立って、高山市で行われた下記セミナーにて、開発教育指導者研修の成果を
発表しました。



開発教育人材育成セミナープログラム1日目

(☆入場無料)

11/29 (土) 会場:高山市民文化会館

<p>12:00 }</p> <p>13:30</p>	<p>★対象:教育関係者、NGO等開発教育に関心のある方</p> <p>「開発教育入門セミナー」(会場:4階会議室)</p> <p>・JICAの開発教育指導者研修を修了した元青年海外協力隊員や教員が、その成果を発表します。ワークショップを行い、藤原孝章氏と古田敦子氏が解説します。 ・現在手に入る教材も多数展示。教室ですぐに役立つ実践的セミナー。</p>	<p>〈講師〉 定員40名</p> <p>・藤原孝章 (開発教育協会・富山大学教育学部教授)</p> <p>・古田敦子 (JICA岐阜県国際協力推進員)</p> <p>・市川恵、日下部貴枝、大橋裕子 (JICA開発教育指導者研修修了生)</p>
<p>開場13:30</p> <p>14:00 }</p> <p>16:00</p>	<p>★対象:小中高校生、一般</p> <p>「地球のステージ」(会場:1階小ホール)</p> <p>・困難にあってもたくましく生きる世界の子どもの姿を映像と語りと音楽でいきいきと感動的に伝えます。桑山氏は、高山市の出身で、現在高山市と友好都市の山形県上市市で精神科医をしています。</p>	<p>定員420名</p> <p>・桑山紀彦 (特定非営利活動法人地球のステージ)</p>
<p>16:30 }</p> <p>18:30</p>	<p>★対象:教育関係者、一般</p> <p>「地球のステージを学校現場でどう活かすか」 (会場:4階会議室)</p> <p>・「地球のステージ」を参考に、どのように国際理解を子ども達に伝えていくのかを、「地球のステージ」の演奏者の桑山紀彦氏と一緒に考えます。</p>	<p>定員40名</p> <p>・伊藤通子 (とやま国際理解教育研究会)</p> <p>・桑山紀彦 (特定非営利活動法人地球のステージ)</p>

コーヒーの貿易ゲーム

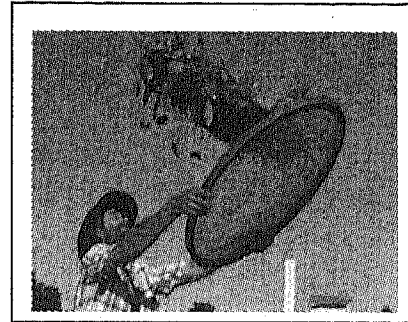
小学生編

中学生編

相互依存

コーヒー栽培農家と多国籍企業

- 目的 工業国と開発途上国のあいだに存在する不均衡な相互依存の影響をシミュレーションによって体験する。
- 人数 5～6人グループが複数できる人数
- 所要時間の目安 120分
- 用意するもの 以下のシートのコピー
 - ・「農家〇〇ファミリーの農地シート」
 - ・ポストイット 2色各 10枚
 - ・「模造紙家計表」
 - ・「状況説明シート」
 - ・「お札 1,000円・500円・250円」
 - ・お財布 (ビニール袋)
 - ・マネー社営業成績表
 - ・電卓
 - ・ポストイット数枚
 - ・世界地図



他おすすめ : 世界のコーヒー消費国、生産国ベスト3の表。コーヒー商品数品。コーヒー生産過程紙芝居。生豆。フェアトレード商品等。

<参考資料> : 開発のための教育 ユニセフ 1998年
 開発教育教材シリーズ②いい貿易ってなんだろう 一杯のコーヒーから考える世界の貿易
 (特活)開発教育協会 (DEAR) 1999年

《《 おすすめかた 》》.....

ファシリテーター:

- ① 「これからコーヒーの貿易ゲームを行います。
 その前に皆さん、コーヒーと言って思い浮かぶものは何ですか。
 コーヒーに関する商品や CM を幾つか挙げてみてください。」
 ↑ ↑ 後、コーヒーの缶やインスタントの瓶などを幾つか見せる。

このへんはファシリに
 おまかせ。お好きなように

- ② 「コーヒーはご自分にとって身近な飲み物でしょうか？
 コーヒーが好きな方は挙手をお願いいたします。
 それでは挙手された皆さんにお聞きしますが、普段コーヒーをどの位飲んでいますか？週に1杯以上飲んでいる方？1日1杯は飲んでいる方はいらっしゃるでしょうか？どんなコーヒーを飲んでますか？」
 ↑ ↑ 「どうやら私たち日本人は相当コーヒーが大好きなようです。コーヒーがなくなったら困る人も沢山いるかもしれませんね。」

VII 岐阜県開発教育
 実践講座の記録

③ 「 それではクイズです。現在 世界で1番のコーヒーを消費している国はどこでしょう? 」
 「 大当たり。1位はアメリカです。それでは第2位は? 」
 「 はい、そうです。2位は南米 ブラジルです。では 3 位はどここの国だと思いますか? 」

「3位はヨーロッパのドイツです。数字でみるとこうなります。そして 4 位に日本が入ってきます。」
 と、統計表(消費国ベスト3の表)を見せる

1	アメリカ	113 万 2 千トン
2	ブラジル	81万 トン
3	ドイツ	54万 4 千トン

4 位:日本(41 万 7 千トン)と続く……

④ 「 では反対に、そのコーヒーを世界で1番多く生産している国はどこでしょうか? 」

「 これは結構知られているので簡単ですよ。そう、ダントツ1位でブラジルです。それでは2位はどこでしょうか? 」

と、世界地図でブラジルの位置を指す

「 はい。コロンビアです。しかし、それは2002年度の統計なのでコロンビアですが、2000年からは3位のベトナムとコロンビアが2位と3位を年によって入れ替わっている状態がみられています。ベトナムはここ10年間でコーヒーの生産を急激に増やしています。 」

1	ブラジル	290万9千トン
2	コロンビア	67万 5 千トン
3	ベトナム	60万 トン

コロンビアとベトナムの位置を指す
 と、新たに統計表(生産国ベスト3の表)を見せる。

「 4 位はインドネシア、その後はインド、メキシコ、エチオピア、グアテマラ、ホンジュラス、タンザニアと続きます。 」

読み上げた国全ての位置を世界地図で指す

「 他にどんな国がコーヒーを生産しているかご存知でしょうか? 」

ここにインスタントコーヒーのネスカフェゴールドブレンドがありますが、これにはコロンビア、グアテマラの2国の豆がブレンドされて入っています。 」

「 スターバックスで購入したこの豆にはグアテマラ、メキシコ、パプアニューギニアと書かれていますねえ。 」

と、世界地図で3カ国を指す

「 コーヒーは赤道をはさんで南北25度のコーヒーベルトと呼ばれる地帯で栽培されます。良質の豆を生み出すにあたって年間の平均気温、降雨量、火山性の土地や高地などの条件がこのコーヒーベルト地帯が適しているからです。この地帯の約60カ国でコーヒーは生産されていますが、コーヒー豆は予想以上にデリケートで、霜害やサビ病などによる被害も受けやすく、コーヒーの収穫量はその年の気候や風土によって激しく変動します。 」

と、世界地図でコーヒーベルトを指す

「 さて。それでは早速コーヒーの貿易ゲームを始めてみましょう! 」

ステップ1・導入

※模造紙に拡大した家計表をあらかじめ黒板に貼っておく。

① グループ内での役割分担を決める。

- ブラック村の農家 : 1G6~7人。父、母、祖父、祖母、息子1名、娘1~2名等の構成で役を決め、ファミリーの名前も考える。
- : 各Gに「農家〇〇ファミリーの農地シート」と2色のポストイット各10枚、ビニール袋(お財布)を配っておく。

ファシリテーター:

「既に皆さんには6つのグループに分かれていただいております。この時間は同じグループの皆さんで1つの家族、ファミリーになっていただきます。ゲームと思わず南米の農家になった気持ちで参加してください。」

「ゲームを始める前に、これから3分で各グループで決めていただきたいことがあります。」

グループの家族構成を決めて一人一役分担してください。例えばおばあちゃん、お父さん、お母さん、残りは子ども。ここでお願いですが、最低1人は小学生位の子どもを設定してください。

そしてグループのファミリーネームを何でも構いませんので皆さんで楽しく決めて、家計表と農地シートに記入してください。ではスタート! 」

3分

【 3分の間に 】

- マネー社の営業員 : 2~3人。「マネー社」の事情を農家のいないところで説明。
もしくはマネー社役はファシリテーターや教師が務めるのも可。マネー社の役目は
- ① 1年ごとに農家にコーヒー栽培を奨励する
- ② 1年ごとにコーヒー代金を農家に支払う
- ③ 借金の申し出があった場合、ポストイットに記入等の手続きをおこなう
- ④ 1人は終始「マネー社営業成績表」の計算と記入をおこなう ことを確認。

※「ブラック」村や「マネー」社のネーミングは → 学校名や地名に言い換えるのも◎。

② 農家の 状況説明シートを読む。

ファシリテーターが状況説明シートを読み上げ、要点を今一度皆で一斉に確認、把握する。

要点だけ黒板に書き上げておくと良い。

例:「貯金がしたい」「子どもを学校に行かせたい」「穀物・野菜は売るのも買うのも1ブロックにつき1,000円」

「1年間に必要な家族の食べる穀物・野菜の量は10ブロック分」

「干ばつや害虫のせいで食糧不足になる年もあった」

設定時間が足りない場合はシートを個々に渡しておき、事前に読んでおいてもらうのも◎。

その場合も要点だけは全員で今一度確認、把握すること。

ファシリテーター:

「各ファミリーに1枚農地シートが配布してあります。今は10ブロックすべて穀物や野菜を作っているため緑のポストイットが貼られていることを理解してください。これはすべて家族が食べていく量なので売ることができませんが、買う必要もない状態です。貯金はゼロです。」など。

ステップ2・シミュレーションを行う

① ファシリテーターは次の指示を読み上げ、交渉開始を告げる。

ファシリテーター:

「ブラック村の農家の人々は自分たちの生活を改善しようとしています。一方、マネー社は事業を拡張、会社を大きくしたいと望んでいます。この機会に両者は顔を合わせ、お互いの利益になるかどうか交渉をしてみましょう。それではマネー社さん、ブラック村の皆さんに感じよく元気よく！コーヒー栽培をすすめてみてください。」

マネー社:

「みなさん、まずはコーヒーを1ブロックでも2ブロックでも始めてみませんか？1ブロックにつき1,500円支払えますので穀物・野菜を1,000円で買って500円の貯金ができますよ。」 など

② 1分でファミリー内で決断。

ファシリテーター:

「それではただいま2004年、今年は10ブロックのうち何ブロックをコーヒー農地にあててみるかファミリー内で、1分で決めて農地シートも張り替えてください。農地シートは今まで10ブロックすべて穀物・野菜の緑色になっていましたが、コーヒーの数だけピンク色のポストイットに張り替えてみてください。ではスタート！」 1分

③ 何ブロックをコーヒー農地に決めたか各グループに確認する。

ファシリテーター:

「では〇〇ファミリーさんから何ブロックに決めたか教えてください。」 〇〇〇〇〇
↑ と、家計表にマジックで塗り込んでいく。(コーヒー＝茶色、穀物・野菜＝緑色) 〇〇〇〇〇

④ 家計表に全ファミリーの農地シートの振り分けを塗り終えた後、次の指示を読み上げる。

1年後

ファシリテーター:

1年後 (2005年)
「交渉が成立したところ、そうでないところもあったでしょうか。さて、1年が経ち、最初のコーヒー収穫が終わりました。マネー社は約束どおりコーヒー栽培に使った土地1ブロックにつき1,500円を各農家に支払ってください。野菜を買わなくてはならない分は農協で買ってください。」 ←農協役:ファシリヤ先生(補助)

「ではまず、マネー社からコーヒー代金を1ブロックにつき1,500円受け取りましょう。マネー社さんは農地シートのコーヒー(ピンク色)のブロックに1,500円ずつお金をのせていってください。農家の人たちはそのお金をまだ動かさずに、シートに載せたままにしておいてください。」

- ⑤ マネー社はお礼を言いながらコーヒー1ブロックにつき1,500円分のお札を置いていく。
 ⑥ 続いてコーヒー栽培にしたピンク色のブロックの数だけ穀物・野菜代を農協に払う。

ファシリテーター:

「コーヒーを作ったブロックの分だけ、農家の方は穀物・野菜を農協で買わないと家族全員が1年間食べるために必要な量になりません。これから農協(ファシリや先生)の人が各ファミリーを回りますので、コーヒーのブロックの数だけ、1ブロックにつき1,000円を支払ってください。」

→農協役はシートにのっているコーヒー代金から野菜の代金をもらっていく。

- ⑦ 各ファミリーがこの年幾らもうかったか、表に記入。

ファシリテーター:

「お金の受け取りと支払いが済んだところで、各ファミリーが今年幾ら貯金できたか教えてください。」

〇〇ファミリーさん幾らの貯金ですか? 〇〇ファミリーさんは? ……」

→補助の先生もしくはファシリが黒板に貼ってある家計表に金額を記入していく。

1年目は「その年の利益」が「財布の金額」。

○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
その年 の利益	財布の 金額

ファシリテーター:

「では家族のお財布を預かる人を今回はお母さんとしましょう。お母さん、今年貯金できたお金をお財布のビニール袋に入れて、大事に机の中に閉まってください。そしてこのお財布は私が次に出していいと言うまで、決して勝手に机の中からださないでください。」

→ お母さん役は指示に従う。

2年目へ

- ① 交渉 → 家族会議 → 何ブロック作るか表に記入。

ファシリテーター:

「そして来年はどうか、農家とマネー社でまた交渉を行ってください。」 交渉

「では家族会議を行い、来年は何ブロック作るか1分で決めてください。」

1分

「では2年目はコーヒー農地を何ブロック作るか〇〇ファミリーから教えてください。」

→ 黒板の家計表に各ファミリーのブロック数の割合を表示する。

② 各ファミリー発表後、次の指示を読み上げる。コーヒー代金受け取り。

ファシリテーター:

2年後（2006年）

「2年目が終わりました。不運なことに、村に干ばつが起きました。

コーヒー農地はマネー社が灌漑(かんがい)施設を作っておいたため、無事でした。

しかし、農家が自分たちが食べるために育てていた穀物や野菜は被害を受け、昨年の半分しかとれませんでした。」

「ではまず、マネー社からコーヒー代金を1ブロックにつき1,500円受け取りましょう。

マネー社さんは農地シートのコーヒー(ピンク色)のブロックに1,500円ずつお金をのせていってください。農家の人たちはそのお金をまだ動かさずに、シートに載せたままにしておいてください。」

③ 食べる分の穀物・野菜の支払いと家計表の記入。(← ここ、慎重に！)

ファシリテーター:

と、農地シートで計算の仕方を説明する。

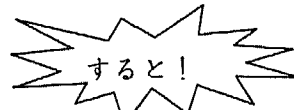
「皆さん、自分たちが作って食べられる穀物・野菜の収穫は今までの半分です。

つまり今ポストイトで緑色を示しているブロックの半分だけが収穫できた分なので、半分は野菜もコーヒーも何もとれなかったということです。ですからそのブロックの分も野菜を買わないと、家族が1年食べて生きていけません。

では今シートに載っているお金から穀物・野菜代を農協に支払ってください。」

→ 農協役がピンク色のブロックの数と緑色のブロック数の半分から1,000円ずつ回収。

ファシリテーター:



「すると、支払う分のお金が足りなくなるファミリーがでてくると思います。幾ら足りないか、もしくは幾らまた貯金できそうか、教えてください。」

→ 家計表に各ファミリーの「その年の利益」の金額を記入(ファシリか補助)。

ファシ or 補助は右欄の財布の金額(合計)も計算して記入。

④ マイナスのファミリーはマネー社にお金を借りて、借用書の手続き。合計金額を確認。

ファシリテーター:

「それではお母さん、机の下からお財布を取り出してください。

貯金できたファミリーは今年度の現金をお財布に入れて、現在のお財布の合計金額と黒板の家計表が同じ金額になっているか確認してください。今年の方では払えないけれど、昨年の貯金から今年の野菜代を払えるファミリーはマネー社まで払いにきてください。

払いきれない農家は、マネー社からお金を無利子で借りることができます。ただし、コーヒー栽培をしていない農家はお金を借りることができませんので、家族のためにお金が必要な場合は、来年は何ブロックかをコーヒー農地にすることをマネー社に約束したうえで、お金を借りる前に来てください。」

マネー社は借用書の手続きをおこなう。
1件につき2枚のポストイトを用意し、両紙に足りない金額を—(マイナス)で記入。1枚はファミリーへ。もう1枚は家計表の「その年の利益」の上の辺りに貼っておく。ファミリーはその紙をお財布に入れる。

3年目へ

① 交渉 → 家族会議 → 何ブロック作るか表に記入。

ファシリテーター:

「各ファミリーのお母さんはお財布を机の下に保管しておいてください。そして次に私が出して良いと言うまで決してお財布の中身を触らないようにしてください。

そして来年はどうか、農家とマネー社でまた交渉を行ってください。干ばつは終わりかけており、来年はその心配はいらないと予想されます。」 交渉

「では家族会議を行い、来年は何ブロック作るか1分で決めてください。」 1分

「では3年目はコーヒー農地を何ブロック作るか〇〇ファミリーから発表してください。」 発表

→ 黒板の家計表に各ファミリーのブロック数の割合を表示する。

② 各ファミリー発表後、次の指示を読み上げる。コーヒー代金受け取り。

ファシリテーター:

3年後（2007年）

「3年目が終わりました。幸いなことに、干ばつは終わっています。

農家が食物を育てる土地は再び1ブロック1,000円の作物を生産しています。

しかし、世界のコーヒー市場は生産過剰(世界中で作りすぎた)のため価格が半分に下がっています。

マネー社は1ブロックの土地からとれたコーヒーに対し昨年のお金の半分しか受け取れません。

ですからマネー社が農家に支払える金額も昨年の半分になり、1ブロックあたり750円です。

では、まずはマネー社からコーヒー代を1ブロックにつき750円もらってください。」

③ 食べる分の穀物・野菜の支払いと家計表の記入。

ファシリテーター:

「ではコーヒーを作ったファミリーは、今年受け取ったコーヒー代金から農協にコーヒーのブロック分の穀物・野菜を買ってください。」

→ 農協役は野菜代金を回収。

「すると、支払う分のお金が足りなくなるファミリーがでてくると思います。幾ら足りないか、もしくは幾らまた貯金できそうか、教えてください。」

→ 家計表に各ファミリーの「その年の利益」の金額を記入(ファシリカ補助)。

ファシ or 補助は右欄の財布の金額(合計)も計算して記入。

④ マイナスのファミリーはマネー社にお金を借りて、借用書の手続き。合計金額を確認。

ファシリテーター:

「ではお母さん、机の下からお財布を取り出してください。」

貯金ができファミリーは今年度の現金をお財布に入れて、現在のお財布の合計金額と黒板の家計表が同じ金額になっているか確認してください。今年分では払えないけれど、昨年の貯金から今年の野菜代を払えるファミリーはマネー社まで払いにきてください。

払えきれない農家はマネー社からお金を無利子で借りることができます。

ただし、コーヒー栽培をしていない農家はお金を借りることができませんので、家族のためにお金が必要な場合は、来年は何ブロックかをコーヒー農地にすることをマネー社に約束したうえで、お金を借りに前に来てください。

マネー社は借用書の手続きをおこなう。
1件につき2枚のポストイットを用意し、両紙に足りない金額を－(マイナス)で記入。1枚はファミリーへ。もう1枚は家計表の「その年の利益」の上の辺りに貼っておく。ファミリーはその紙をお財布に入れる。

ラスト、4年目へ

① 交渉 → 家族会議 → 何ブロック作るか表に記入。

ファシリテーター:

「もうかったファミリーはお金をこのお財布に入れて、机の下に保管しておいてください。

借金をしたファミリーは借用書をお財布に入れておいてください。」

そして来年はどうするか、農家とマネー社でまた交渉を行ってください。」 交渉

「では家族会議を行い、来年は何ブロック作るか1分で決めてください。」 1分

「では4年目はコーヒー農地を何ブロック作るか〇〇ファミリーから発表してください。」 発表

→ 黒板の家計表に各ファミリーのブロック数の割合を表示する。

② 各ファミリー発表後、次の指示を読み上げる。コーヒー代金受け取り。

ファシリテーター:

4年後（2008年）

「4年目が終わりました。

今年の良いニュースは、世界市場のコーヒー価格が安定し、もとおりの価格に戻ったことです。

マネー社は今年も、コーヒー用の土地1ブロックにつき1,500円を、農家に支払います。

しかし、今年はあまりにも多くの土地をコーヒー栽培に変えてしまったため、穀物や野菜など食料の生産高は少なくなってしまう、価格がとても高くなっています。

実際、昨年1,000円で買えた食料が、今年は2,000円もします。

それからマネー社は貸しつづけてきたお金をこの4年目で一旦決着をつけたいと言ってきます。

今までの借金は何とかしてマネー社に返さなくてはなりません。

最後にどうやって返すかも家族で答えをだしてください。

では、まずはマネー社からコーヒー代を1ブロックにつき1,500円もらってください。」

③ 食べる分の穀物・野菜の支払いと家計表の記入。

ファシリテーター:

「ではコーヒーを作ったファミリーは、農協にコーヒーのブロック分の野菜を買ってください。今年の野菜は2倍かかります。1ブロックにつき2,000円支払ってください。」

→ 農協役は野菜代金を回収。

「すると、支払う分のお金が足りなくなるファミリーがでてくると思います。幾ら足りないか、もしくは幾らまた貯金できそうか、教えてください。」

→ 家計表に各ファミリーの「その年の利益」の金額を記入(ファシリカ補助)。

ファシ or 補助は右欄の財布の金額(合計)も計算して記入。

④ 4年目はお金を借りたり、借用書の手続きは不要。結局幾ら貯金できたか、赤字が幾らになったかだけ計算する。

ファシリテーター:

「貯金できたファミリーは今年度の現金をお財布に入れて、現在のお財布の合計金額を計算し、家計表と合致しているか確認してください。」

赤字に落ち込んでしまったファミリーは一体全部で幾らの借金になりましたか?家計表と合致しているか確認ください。

そして先ほど申し上げたように、その借金をどう返済するか家族で決めてください。貯金できたファミリーは、その貯金で何をするかを決めてください。

マネー社の1人は
自分たちの利益(4年間全て)を計算し、総合金額をだす。

この時点でシミュレーションを終了する!

ステップ3・財務状況の発表と話し合い

① 財務状況の発表。

ファシリテーター:

「では、各ファミリーの結果を皆さんで見ましょう。」

資料4

「〇〇ファミリーは〇〇円の貯金ができ、その貯金を〇〇すると書いてあります。そして〇〇ファミリーは

大変な借金、〇〇円を抱え込んでしまいました。そのために〇〇することにされたそうです。」等。。
 「それでは、今度はコーヒー栽培を促進させた、マネー社さんの売上げを見てみましょう。
 マネー社さん、ブラック村で儲かった売上げの合計金額をボードに書いてみてください。」

「ビックリですね！マネー社さんの売上げはこの4年間で〇〇円に膨れ上がったというわけです。
 じつは皆さんが1ブロック作ると普通1,500円もらっていたコーヒーを、マネー社さんは先進
 国のスーパーで7,500円で販売していたのです。
 農家に払う1,500円をひくと、簡単に言うと6,000円も自分の儲けになったというわけ
 です！」

→ 計算式も黒板に記入する。

「皆さん、計算がややこしい部分もあり、かなり疲れたり、もしくは嫌な気持ちになられた方も多かったの
 ではないでしょうか。借金を抱えた〇〇ファミリーの方にお聞きします。やってみてどう思いました
 か？」

Q:

「目標であった貯金はできましたか？」

「コーヒーを作ったことを後悔していますか？」

「実際にご自分がコーヒー農家の職業につくのは嫌ですか？」

「この後5年目が続いていたとしたら、あなたはコーヒー栽培を続けようと思えますか？」

「それでは反対にマネー社さんの本音をズバリ聞いてみましょう。

マネー社さん、農家が苦しみ始めたり、借金をお願いしてきた時、どんなことを思っていましたか？

マネー社さんの気持ちになって一言、どうぞ！」

② コーヒー生産過程の紙芝居

ファシリテーター:

「ではここで、コーヒー豆がどんな過程で作られるのか皆さんで見てください。」(計17枚)

③ 話し合い。

ファシリテーター:

「では最後のグループ作業をしていただきます。」

「ここで客観的にコーヒー貿易をとらえてもらうために、そしてやはり今日のこの時間に1人でも多くの皆
 さんと知り合い、意見交換ができるために、今からグループメンバーのトレードをおこなっていただきま
 す。」

「ファミリーでジャンケンをしてください。負けた3人は時計回りで隣のグループに移動して

資料 4

「これから10分間、以下の課題について、ご自由にグループ討論を行ってみてください。
どなたかお1人書記を決めて、今からお配りするA4用紙にでた意見を沢山書き込んでみてください。
その後2つ位のグループに結果を発表していただきたいと思います。ではスタート！」

- どうすれば農家は借金を作らずに済んだのか。又貯金をするにはどうしたら良いのか。
- 結果的にどちらのグループも利益をあげることができただろうか。
- 農家にとって不本意な結果になった場合、その責任を企業に問うことはできるだろうか。
- 「農家はコーヒー栽培を行わず自給自足の生活を続ける方が良い」と言えるだろうか。
- 「相互依存」とは、さまざまなことがさまざまな関係でつながっていることを意味するが、今回のシミュレーションでは、下記のそれぞれがどのような関係(相互依存)を持っていたらどうか？

農家 企業 自給用農地 コーヒー栽培用農地 世界市場 物価 天候
過去のできごと 教育 お金 家族 工業国 開発途上国 借金の条件

10分後

② グループ発表

ファシリテーター:

「各グループでこれは！と思うアイデアや意見が交わされたと思いますが、時間の都合のため、今日は〇〇グループだけの発表にさせていただきますと思います。

発表者は決まっていますか？どなたかやってもいいよ、という方いらっしゃいますか？

もしなければ、今書記をしてくださった方の左隣に座っている方にやっていただくということにさせていただきます。では〇〇さん、どうぞ。」

「ではこちらのグループの方、お願いします。」

③ まとめ

ファシリテーター:

「どうもありがとうございました。」

「今までコーヒー農民の状況について皆さんに疑似体験をしていただき、農民の立場や多国籍企業の立場について等考えてもらったことと思います。」

岐阜県国際協力推進員:

- 足近小学校で行ったコーヒーWSの結果を紹介。何故コーヒー貿易を進めるか、説明。(10分間)

終了！！

岐阜県立芸術高等学校

※ A3用紙に拡大すると、正方形のポストイットが丁度枠内におさまります。

マネー社 営業成績表

	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	ファミリー	合計
2004年	ブロック数															
	利益金額(円)															
2005年	ブロック数															
(1年目)	利益金額(円)															
2006年	ブロック数															
(2年目)	利益金額(円)															
2007年	ブロック数															
(3年目)	利益金額(円)															
2008年	ブロック数															
(4年目)	利益金額(円)															
	合計金額															

※ 3年目のみ1ブロック×3,000円で計算。他は全て1ブロック×6,000円で計算。

状況説明シート

小学生用(高学年)

中学生用

農家用

【あなたの持っている農地】

1ブロック 1,000円分	1ブロック 1,000円分
野	穀
菜	物

●あなたたちは中南米にある国の『ブラック村』の農家です。
10ブロックの農地を持っており、そこで家族が食べる米・小麦などの穀物と野菜を育てています。

●農地1ブロックからとれる食料をお金に換えると、日本円にすると年間1,000円になります。これは1ブロック分の野菜を売るのも、1ブロック分の野菜を買うのも1,000円です。

●けれど、家族みんなが食べるために必要な食料の量が年間10ブロック分なので、現時点ではぎりぎりの量を生産していることになります。

●作ったものはすべて食べ、売るのにまわす余裕はまったくなく、貯金もありません。

●この村は、干ばつ(=雨が長く降らず、農作物に必要な水が乾ききること。日照り)や害虫(=他に害毒をおよぼす虫)の発生などによって、過去に何回か食料不足を経験しています。あなた達は家族の生活をもっと安定させるために、食料不足にそなえて、貯金をしておきたいと考えています。

●家族のおばあさん、お父さん、お母さんは、子どもの頃、家の農作業に手伝いのために小学校を途中でやめましたが、今ではそれを後悔しています。ですから、自分の子ども達には将来のために教育を受けさせなくてはならないと考えています。しかし学校に支払う授業料が払えません。

●家族が安心して暮らすためにも、子ども達の将来のためにも、あなた達は皆、自分の土地でもっとお金をかせげる方法はないだろうかと探しています。

さて今日、日本から食料品の大きな会社『マネー社』の社員が、
「あなたの土地でコーヒー栽培をしないか」と話をしに来るようになっていました。
これは、あなたが待っていたチャンスかもしれません。

小学生用(高学年)

中学生用

マネー社

【 各農家の持っている土地 】

1ブロック 7,500円	1ブロック 7,500円
野	穀
菜	物

↓
 コーヒー農園
 1ブロック

7,500円(売上げ)

－ 1,500円(村に払う)

6,000円の 利益

- あなたたちは、いろいろな食料品を販売している大きな会社「マネー社」の社員です。
- あなたたちは、世界の国々に販売するコーヒーを作ってくれる産地を探しています。コーヒー豆が育つ、中南米のとある国のブラック村の農家に、その農地の一部でコーヒー栽培をさせようとしています。
- あなたはこれから、会社の仲間と一緒にブラック村に行き、農家の各ファミリーが10ブロック持っている、今のところはその土地で米や野菜を作っている土地のうち、まず2ブロックくらいをコーヒー栽培に使うよう説得します。そして、コーヒー用地1ブロックあたり1,500円を支払うと約束します。

- なお、コーヒーを売ると、1ブロックの土地から採れたコーヒーに対し、会社は7,500円を受け取ります。したがってコーヒー農地1ブロックにつき、会社は6,000円もうかることになります。

(7,500円－1,500円 = 6,000万円)

- あなたが特にブラック村を選んだ理由は、この村の農家の多くが苦しい生活をしているのを知っているからです。ブラック村の各農家は、10ブロックの土地を持っており、そこで自分たちが食べれるだけの穀物(=米や小麦)と野菜を育てています。農地1ブロックから1年間とれる食料をお金にかえると1,000円になりますが、家族みんなが1年間食べるために年間10,000円(1万円)相当の量の食料が必要です。ですから、現時点ではぎりぎりの量を作っていることになります。(1,000円×10ブロック=10,000円)作ったものはすべて食べ、売るのにまわす余分はなく、どの農家も貯金がありません。

干ばつ(=雨が長く降らず、農作物に必要な水が乾ききること。日照り)がおきたり害虫(=他に害毒をおよぼす虫)のために収穫がだいなしになったりすると、多くの村人が食料不足におそわれます。ブラック村では過去に何回か飢饉がありました。しかしコーヒーを栽培すれば、農家はお金をかせぐことができ、いつか災害がおこった時にそなえて貯金ができることでしょう。

また、村人の多くは教育を受けておらず、自分の子どもには教育を受けさせたいと考えています。現金収入が増えれば、子どもに教育を受けさせることもできます。子どもの教育は、村人が最も重要視していることです。

さあ、農家のみなさんに コーヒー栽培をすることを 強く 呼びかけてみましょう！！

実際、やってみました

実施日：2004年1月22日（木）10：45～12：20

羽島市立 足近小学校6年生2クラス（50名）

ファシリテーター：JICA岐阜県国際協力推進員 古田敦子



【 気付いたこと 】

- ・ 小学生対象の場合、2時間ではタイトスケジュールなプログラムかもしれない。時間までに終らなければいけないが為に小学生が現状を把握しきれていないのに進めた部分があった。
- ・ 小学生でもコーヒーは自分の生活に身近なものとなっている。今時の子どもはコーヒーを好んで飲んでいる児童も昔より多いようだ。題材として◎。
- ・ 身近であるにも関わらず、コーヒーが世界のどこで採れているかはやはり知らない。コーヒー豆がどのように作られるかも知らない。これは大人でもそう。自分の周りにあるものを見つめなおす良い機会になったようである。
- ・ 小学生でもできる様、教材・やり方をかなり改良したものの、「それでもまだ難易度の高いアクティビティかもしれない」という不安があったが、やってみると予想以上に子どもは理解し、世界観をもってWSに取り組んでいた。下手をすれば始めから学ぶ意欲のない高校生がするよりも小学生の方が吸収できるアクティビティなのかもしれない。
- ・ 手間がかかるWSであることは否定できない。すぐに授業で使って欲しいアクティビティだとは思いますが、参加者が理解しやすいような教材の用意や事前の教師との打ち合わせが必須。教師が授業の前に予め内容を知っておく必要もある。
- ・ ファシリテーター1人では対応しきれないWS。今回足近小の担当者である亀山先生がサブファシリを進んで務めてくださり、私が言い足りない言葉を補ってくれたり子ども達の計算の手伝いをしてくれたことで、なんとか円滑にゲームを進めることができた。
- ・ マネー社2名への最初の説明が不足していたり、時間の都合で出番を多く回せなかったのが申し訳なかった。農家を含め1人1人に対するフォローが足りなかった。
- ・ それでもふり返りタイムでは驚くほど鋭い意見が幾つかでた。始めの一言は
農 家 — 「ズルイ！」「不公平やわ。」「農家にはなりたくない。」
マネー社 — 「農家はどんどん損してバカやなーと思った。」と感想を述べたが、
「マネー社は利益もらいすぎだから、もっと農民に分けてあげればいい。」
と、解決策まであげられた児童もいた。
- ・ 亀山先生がふり返りとして午後からもう1時間設けて感想文を書かせたり自由にクラスで意見を述べ合ったことが非常に効果をあげた。後日WSの感想文が届いたが、6年生でここまで分かるのか！というような素晴らしい思いがあふれていて本当に驚いた。いくつか裏紙に添付してみました。



お知恵拝借、 ポートフォリオを取り入れた理想の年間計画を作成!

15:20~16:30

ファシリテーター：岐阜県国際協力推進員 古田敦子

① 全員輪になり着席。

配置一小・中学、高校教諭、その他の順。なるべく知らない人と隣席になる。

② 全員で改めて考える。

Q：「国際理解教育」「総合学習」ってなに？その狙いは？

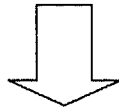
Q：どんなふう実践していますか？どんな授業をしていますか？

Q：ゲストティーチャーは学校に呼ばれてどんなことをしていますか？
何を話していますか？効果は？手応えは？

Q：年間何時間「国際理解教育」実践されていますか？

A：1~120時間と人や学校によって様々。

Q：思いつきでやっていますか？年間カリキュラムをたてて行っていますか？



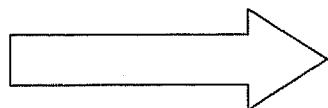
どうも皆さん、
充実した国際理解教育が
できていないところが多いようだ。

③ ポートフォリオをご存知ですか？授業で活かしたことはありますか？

ポートフォリオの紹介とおすすめ。本の紹介。

④ さあ、年間計画を作ってみよう！

1. 隣の人と2人1組のペアになり、国際理解教育でやりたいこと、やれそうな授業内容を3分間ブレン・ストーミング。
2. グループを作り、まずは「1年間で取り入れたいアイデア」を15個決める。(授業数にはこだわらない)
3. そのアイデア15個を4月~3月の年間カレンダーに埋める。
4. 右欄にその授業を実践することでどんな「生きる力」を育むことができるか、どんな効果があるか記入。



結果

1G (小学校教諭)

4(月)	日本のおそび世界のおそび	<p>興味・関心</p> <p>出 会 い</p> <p>コクリコ (国理子)</p> <p>世界の課題を知る</p> <p>自分にできること さがし</p>
5	日本・世界の味ー食物ー	
6	国紹介(調べ)発表	
7	ゲストとのふれあい ー料理・写真・歌・紙幣・衣装・食物	
8	異文化体験キャンプ	
9	世界の子どもの生活を知るワークショップ	
10	課題別調べ学習	
11	発表と出会い(協力隊 他学年 地域)	
12	自分にできること(話し合い決定)	
1	取り組み計画・準備	
2	行動(広げる)感謝	
3	ポートフォリオまとめ(HP・絵本)	

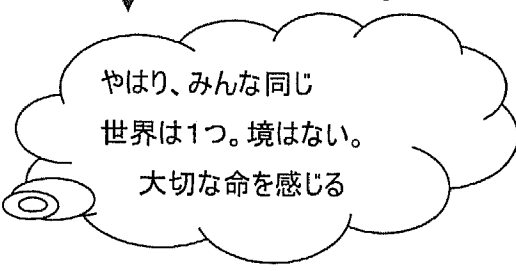
2G (小学校教諭)

4	作	外国のスポーツ&遊び	<p>興味・関心を持つ</p>
5	っ	野外学習with外国の方と	
6	て	各国の料理を作って食べよう	
7	育	世界にはどんな国があるのだろう	<p>自らその国を知ろうと 行動する力</p>
8	て	個人又はグループでテーマ研究	
9	る	↓	
10		・ シュミレーションゲーム	
11		・ 英語不可Day	<p>知識</p>
12		・ 給食のない日	
1	食		
2	べ		
3	る	パーティー (テーマ研究の発表と会食)	

3G

4	・ 知る	好奇心が育つ
5	自分の周りを調べる。	
6	・ 関係のある国について調べる。	
7	・ 交流する	ワークショップ 出前講座
8	歌、ダンス、料理、遊びetc	自分のできること・やるべきこと探し
9	↓ 交流を深める	子どもどおしの交流
10	歴史、文化、問題を共有する。	
11	・ 仲間になる	同じ人間であることに心から気づく
12	地域活動、ホームステイ	
1	↓ 質・量ともに増える	
2	生活の様式を知る	
3	・ HAPPYになる。	世界への創造(想像)力が増す 違いを認め仲良くできるようになる

4G (幼稚園プログラム)

4	・ ふるさと自慢	自分を知り、その後外を見る。 身近な所から異文化を体験 まずは自ら楽しむ。 ↓ 交流に力を 入れていく。 
5	・ 友だち・生活・親の良さを発見	
6	・ 世界のトイレの使い方	
7	・ 世界のおもちゃ集め、遊ぶ	
8	・ 世界地図作り	
9	・ 共同で絵を描く	
10	・ 国自慢大会	
11	・ お店屋さんごっこ	
12	・ 世界中の料理を作ってパーティー	
1	・ 各国の気候・環境・暮らし・地方での住まいを知ろう	
2	・ 英語の歌を歌う	
3	・ 皆大切な命	

5G

①外国を知る(調べ学習)	→	情報収集
②行きたい国を決める	→	意欲
③予算内での計画 行き先を決める	→	グループで討論する(自己主張)
④↑その国のことばを勉強	→	外国語学習の大変さ、面白さを実感
⑤ その国へ行ったことがある人、出身の人の話を聞く。インターネットで文通etc	→	より深い情報、リアルな情報を得る
⑥ 実際に行く。	→	限られた予算内での生活体験
⑦国の違いの交流	→	お互いに学習したこと、意見の共有
⑧知ったことから課題づくり	→	問題点を見つける力
⑨テーマ学習	→	まとめる力、主張を明確にする力
⑩LTや外国人の方にインタビュー	→	リサーチする力、コミュニケーション能力
⑪分かったことを英語でプレゼン (外部の方を招待して交流)	→	コミュニケーション能力
⑫ 分達で何かできることを考える (グローバル・イシュー)	→	実践力
⑬ 実際に行動	→	実践力
⑭ 評価 (相手の反応)	→	
⑮ 振り返り (自分の成長)	→	

6G

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の習慣の中の宗教を見つける (寺の坊さんなどから話を聞く) → 外国の宗教 ・ 住んでいる地域と関わりの深い外国について ・ 異なる点でなく共通点を見つける (外国人の講演・交流から) ・ 近い外国、韓国 (料理教室) ・ 在日外国人に日本料理を教える ・ 輸入に頼っている現状を考える ・ 日本料理と思っていたが、実は外国から来た料理もあると知る ・ 味の変換。本物の味と日本で変えられた味の比較 (例: インド人から学ぶインドカレーVS日本のカレー) ・ どうやって日本の味にされたか知る ・ 世界の祭日、その由来と宗教、料理。その共通点。

7G

- ・ 世界の料理コンテスト → 興味・関心
- ・ 各国の食事マナーを知ろう
- ・ 特産物の紹介
- ・ 外国の方を招待、料理づくり
- ・ 日本の料理を外国の方に紹介
- ・ 外国人街へ行く
- ・ あいさつ（こんにちは・ありがとう）
- ・ お金研究
- ・ お店
- ・
- ・
- ・
- ・

ここまで
タイムアウト

ホームステイ

8G

衣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民族衣装を着る＋着方 ・ 衣服の原料 ・ 衣服のデザイン ・ 衣装を作る×2
食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統料理を作る、食す×2 ・ 食材 ・ 食べ方のマナー ・ 食べ物に関する知恵袋
住	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築形態（今）気候に関する工夫 ・ " (昔) ・ 建築資材 ・ まとめ × 2

9G

- ・ 世界の言葉で「こんにちは」「ありがとう」
- ・ 音楽「ドレミの歌」を色々な言語で歌う
- ・ 外国人街へ行く → 食べる
- ・ 食べた料理を作ってパーティー
- ・ 外国の歴史を知ろう
- ・ 新聞で海外ニュースを知る
- ・ 大使館に手紙。生活についての質問
- ・ 海外でホームステイ
- ・ 海外の学校とインターネットでやりとり
- ・ ホームレス体験
- ・ ストリートチルドレンを学ぶ
- ・ ポートフォリオ

導入して言語を与えることで興味を持たせる
興味を深める

体験を通じて異文化を知る

情報収集能力を高め問題に気づかせる

問題解決能力をつかせる

生きる力を実践によってつかむ

まとめる

10G

① 図、読めないカレンダー(アラビアカレンダー)提示 ② 講演を聞く ③ 外国の料理を食べる ④ 民族衣装を着てみる	異文化体験	○自分の価値観とは違った現実を知る
⑤ インタビュー ⑥ メール、文通 ⑦ 日本にあるモスクetcに行ってみる ⑧ 言葉しらべ。アンタ=あなた ⑨ 日本でホームステイ	異文化交流	○それについて深める。 目に見えるものの背景や感情などを知る
⑩ 現地の人を呼んで料理を作る ⑪ ペーパーアート・寸劇発表会	発信・交流	○多様な価値観を認める 視野を持つ＝「人」として同じこと

11G

◎ 世界を知ろう

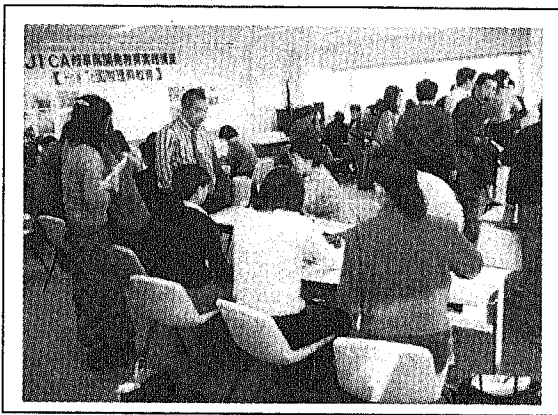
1. ビデオ 2. 服（着てみる） 3. 遊んでみる 4. 料理を作って食べる 5. ふりかえり

◎ 交流会を通じて・違いとらしよを感じよう

1. 計画をたてよう 2. 国を調べよう。自分たちのものも準備 3. 交流会
4. また来てもらって料理の教えあっこ
5. 自分達から出かけよう（相手のテリトリー）

◎ 世界の現状を知ろう

- ・ビデオ（ユニセフ）・貿易ゲーム



⑤ 発表・まとめ

1. 結果をグループの代表が発表。（時間が押した為1Gのみ）
2. 個人が自由に歩き回り、各グループの模造紙（結果表）を見に行く。（3分）
3. 印象に残ったアイデア、気に入ったアイデアを紹介。（3名）

終了